

学校法人京都中央看護師養成事業団 令和3年度事業計画

■事業計画

今般、看護教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えている。教育面においては、令和2年10月に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令が公布され、令和4年度入学生からカリキュラムが改正される。今回の改正によって一定の範囲内であれば学校の裁量で実習単位を自由に設定することができるようになったため、これまで以上に学校の独自性が問われることとなる。

また、学生募集においては、18歳人口の減少の本格化や大学入学選抜方式の変更、専門職大学・専門職短期大学の設置など、高校生の進路選択に大きな影響を与える変化が起こっており、専門学校にとっては先行き不透明な状況にある。京都府では、日本パプテスト看護専門学校が既に閉校し、京都桂看護専門学校と京都府看護専修学校が募集停止の道を選択しており、今後、同様の決断を下す学校が現れる可能性は高い。

さらに、こうした状況に拍車をかけるように新型コロナウイルス感染症が出現し、ウィズコロナ時代に合わせた「新しい教育」の実現に向けた対応が求められている。

こうしたなかで本事業団が将来にわたって学校運営を存続するためには、運営と教育のそれぞれにおいてしっかりとした基盤を築くことが重要であり、その目的の達成に向けて次の重点項目を軸として学校運営に取り組むこととする。

- 【重点項目】
- 1 安定した学校運営と教育環境の整備
 - 2 コロナ禍に対応した学生募集活動の展開
 - 3 本大学校の独自性を活かした、地域に貢献できるカリキュラムの編成
 - 4 ウィズコロナ時代の「新しい教育」の実現
 - 5 教育実践能力の向上

1 安定した学校運営と教育環境の整備

社会情勢の変化や令和2年からのコロナ禍の中で教育環境は大きく変化しているが、これからの医療や看護教育、看護職者の需給状況などを見据えながら継続的に安定した学校運営を行う必要がある。

令和元年10月の消費税率の変更に合わせ令和2年度入学生から授業料を改定し、その増収効果が徐々に上がっているところであるが、一方で、新型コロナウイルス感染防止やICT教育推進のための経費支出が増加している。今後も継続して、教育機関として学生に保証しなければならない安心安全な教育環境の整備、教材設備の充実、教育内容の向上など、ハード、ソフトの両面でまだまだ取り組むべき課題がある。

特に、一時的な大きな支出となる東館の耐震化やレンガ塀の撤去などの安全対策は喫緊の課題であり、令和3年度はレンガ塀の撤去と新たな境界塀の設置を国の補助金を活用し行うこととし、東館の耐震工事については学校法人の財政状況とコロナ感染防止のための活用状況を見極めながら、慎重に対応を判断することとする。

2 コロナ禍に対応した学生募集活動の展開

令和2年度はコロナ禍によっていろいろな制限があるなかでの学生募集活動となった。オープンキャンパスや高校訪問、進学相談会などが中止や縮小開催することとなり、受験生と直接に接する機会が大幅に減るなか、学校、受験生双方が大きな不安を抱えながら入学試験を迎える事態になった。

ワクチン接種が始まったとはいえ、感染状況がすぐに好転するとは考えにくく、引き続きコロナ禍に対応した学生募集活動を展開することが受験生や入学生の確保に結び付くと言える。

こうしたことから、今年度はこれまでどおり対面型の募集活動を継続しつつも、オンラインによるオープンキャンパスの実施やオンライン進学相談会への参加、前年度も効果のあったSNSを活用した受験生との交流といった「非接触による接触」が可能な募集活動にも積極的に取り組むこととする。

3 本大学の独自性を活かした、地域に貢献できるカリキュラムの編成

人口構造・疾病構造の変化によって医療ニーズは多様化し、地域包括ケアシステムの促進及び高度医療に対応できる看護職者には、AIの進歩とともに、より自律性と協働性が求められる。

こうした状況のなか、京都市と一般社団法人京都私立病院協会のサポートを受け、2つの学科を併設する本大学の独自性を活かしながら専門的知識・技術を教授し、健全で調和のとれた人間教育を行い、看護実践者として多職種と協働し、地域に貢献できる有能な人材を育成できるカリキュラムの編成を行うこととする。

4 ウィズコロナ時代の「新しい教育」の実現

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、生活様式や働き方の変化だけでなく、教育においても新しいスタイルへの転換を余儀なくさせた。当たり前に行っていた対面授業が十分に実施できず、オンライン授業とハイブリッドした「新しい教育」の実現が必要となり、ICT教育の環境が十分でなかった本大学では、緊急的・応急的な対応を迫られた。

折しも、令和4年度からのカリキュラム改正では「ICT教育の活用」が盛り込まれている。また、ウィズコロナ時代に適応するため、今後、多くの学校でICT教育の環境が整ってくると推測される。そうした時代においては、「他校との差別化」が学校存続の重要な要素と考えられる。

そのため、ICT教育環境のさらなる充実を目指すとともに、その環境を活用する教員のスキルを向上させ、質の高い教育コンテンツを生み出すことができるよう、課題の解決に取り組むこととする。

5 教育実践能力の向上

近年、本大学では、少子化や低学力化の影響を受けて学力レベルが低い入学生が増え、看護職として求められる能力とのギャップが広がる傾向にある。こうした学生を一定のレベルまで引き上げるためには、これまで以上に教員個々の教育実践能力の向上が重要となる。

こうしたことを受けて、今年度は教員が学生集団の学習状況を的確に把握し、教育目標の達成に向けて効率的・効果的な授業を展開できる能力を身につけられるよう、授業(教材)研究・ICT活用・学生指導等において研修する環境や実践する機会を提供し、学生に対する教育の質を高めていくことに取り組むこととする。

■主な学校行事計画

令和3年	4月	7日	ユニフォーム採寸・感染症抗体価検査／新入生
		8日	始講式／在校生
		12日	第39期生入学式
		13日	新入生オリエンテーション(～15日)
		//	老年看護学Ⅰ実習／両学科3年次生(～28日)
		15日	講師会
		30日	実習指導者会議
		//	領域別看護学実習／看護学科4年次生(～7月27日)
	5月	7日	領域別看護学実習／看護保健学科4年次生(～6月23日)
		10日	公衆衛生看護学Ⅱ実習／看護保健学科4年次生(～7月1日)
		26日	春期レクリエーション祭・新入生歓迎会

	29日	健康診断／両学科1・2年次生
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第31回理事会・第31回評議員会
6月	8日	基礎看護学実習(前半)／看護学科1年次生(～9日)
	14日	前期試験①／両学科1,2年次生(～15日)
	17日	特別講演／両学科1・2年次生
	19日	第1回オープンキャンパス
	21日	小児看護学Ⅰ実習／看護学科2年次生(～25日)
	28日	小児看護学Ⅰ実習／看護保健学科2年次生(～7月2日)
	〃	統合実習／看護保健学科4年次生(～7月21日)
	未定	薬物に関する講習／両学科1年次生
7月	6日	前期試験／両学科3年次生(～9日)
	21日	学生夏期休業(～8月18日)
	29日	実習指導者会議・研修会
	31日	第2回オープンキャンパス
8月	7日	第3回オープンキャンパス
	13日	領域別看護学実習／看護学科3年次生(～1月29日)
	18日	看護過程実習／看護学科2年次生(～9月10日)
	〃	基礎看護学Ⅱ実習／看護保健学科2年次生(～9月3日)
	21日	第4回オープンキャンパス
	23日	領域別看護学実習／看護保健学科3年次生(～12月23日)
	26日	公衆衛生看護学Ⅰ実習／看護保健学科4年次生(～10月28日)
	未定	解剖見学／両学科1年次生
9月	13日	統合実習／看護学科4年次生(～10月8日)
	18日	第5回オープンキャンパス
	27日	前期試験②／両学科1・2年次生(～10月2日)
10月	20日	関西看護学生看護研究大会
	30日	看護研究発表会／両学科4年次生
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第32回理事会・第32回評議員会
11月	6日	指定校推薦入学試験
	9日	保護者会／看護学科
	10日	保護者会／看護保健学科
	12日	学校祭
	18日	宣誓の日／看護学科1年次生
	20日	公募推薦入学試験前期
	25日	宣誓の日／看護保健学科1年次生
12月	11日	公募推薦入学試験後期
	14日	後期試験／両学科4年次生(～17日)
	25日	学生冬期休業(～1月7日)
令和4年	1月	11日 一般入学試験前期(～12日)
		13日 後期試験①／両学科1・2年次生(～14日)
		24日 基礎看護学実習(後半)／看護学科1年次生(～28日)
		31日 基礎看護学Ⅰ実習／看護保健学科1年次生(～2月4日)
2月	7日	成人看護学Ⅰ実習／看護保健学科2年次生(～25日)
		8日 開校記念日
		9日 成人看護学Ⅰ実習／看護学科2年次生(～17日)

	19日	一般入学試験後期
	未定	保健師国家試験
	//	看護師国家試験
3月	1日	後期試験②／両学科1・2・3年次生(～3月5日)
	14日	卒業式
	18日	防災訓練
	20日	学生春季休業(～4月7日)
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第33回理事会・第33回評議員会
	//	卒業講演
	//	卒業生を送る会
	//	健康診断／両学科2・3年次生